

# 断水事態で防災無線放送 広報は十分か

答 聞こえなかったという声がある



岡崎 晋 議員

**問** 昨秋の断水事態で町民への主体的対応者は本町か、南部水道企業団（以下、南水）か。防災無線放送は聞き取れず、広報が十分でなかった。この放送を各字の放送設備と連携すべき。与那原町のLINE登録者は7割、本町はどうか。

**町長** 町民への主体的対応者は南水である。放送が聞きにくいという声は実際にあり、スピーカー音量調整等するが、その使用目的から各字との連携は考えてない。88915531の聞き逃しサービス整備等を更に進める。本町のLINE登録者は4905人で全体の約1割である。



新川にある貯水タンク

**問** 緊急時の適切な情報伝達は行政の重要責務で、防災無線は連携すべき。LINE登録者をどう増やすか。町長は

南水の理事である。本町の貯水量は何時間分か。水道管老朽度と更新計画はどうか。

**町長** LINE登録者が少ないのは大きな課題で、増やす努力をする。貯水量は新川配水池が7時間、新川第二配水池13時間、津嘉山調整池が10時間である。水道管の耐用年数40年超は最長13年、基準超は全体の15%、基本計画に基づき国庫補助を活用し更新事業を進めていると南水に確認した。

## 不登校対策を問う

**問** 文科省調査で令和5年度

の小中学校の不登校率は全国3・72%、沖縄4・65%で増加率も一番高い。本町の現状と対策の効果・課題はどうか。

**学校教育課長** 今年10月末、全町で小学校60名1.8%、中学校73名4.8%。相談員やカウンセラー、ソーシャルワーカー・自立支援・適応指導員等を配置し、昨年は小学校4640回、中学校829回の利用で小学校19名、中学校27名が学校復帰に繋がった。不登校要因は多様で、支援が届きにくいことが課題である。

**問** 子ども達が先生を好きになることがまず第一で、先生は元気でいて欲しい。先生への支援はどうか。

**教育長** 学校大工や相談員・支援員等の配置、留守電導入等してきた。南風原町の宝である子ども達の育成には、是非、先生方が元気でいる必要がある、今後も十分配慮していく。